

丸子地域自治センター

令和3年度 重点目標

- 1 人と環境に優しい安全・安心なまちづくりの推進
- 2 産業が育つ地域づくり・地域の特性を活かしたワイン産業振興
- 3 住民自治組織やパートナーシップによる参加と協働のまちづくり
- 4 現代のライフスタイルにあった丸子温泉郷の振興

重点目標	人と環境に優しい安全・安心なまちづくりの推進		部局名	丸子地域自治センター	優先順位	1位		
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 第1章 豊かな環境を未来につなぐ 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第2節 循環型社会形成の推進 第3節 安全・安心に暮らせる環境の整備		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	人と自然に優しい誰もが住みやすい環境のまちづくり				
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 (2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 ウ市有財産の適切な管理と利活用						
現況・課題	交通量の多い通学路の歩道整備や安全確保に向けた道路整備と合わせ国庫補助事業の制度に基づき、地域の貴重な観光資源である千曲川等の河川を活用した魅力創出のための河川空間の整備事業、治水対策を目的とした河川事業整備事業による安全・安心なまちづくりを推進する必要があります。また公共交通については、交通弱者に対し利便性の向上や持続可能な交通システムの構築が望まれている。循環型社会形成が求められる中において、家庭や事業所における環境負荷低減に向けた取り組みとして、ごみの発生抑制・再使用を優先したライフスタイルへの転換をはじめとし、プラスチックごみ等の適正な分別による再資源化の推進など、ごみの減量・再資源化が大きな課題となっている。							
目的・効果	道路や歩道、河川の整備により、歩行者の安全確保や内水対策と水辺環境整備の充実が図られる。また地域に適した持続可能な公共交通システムの構築により利便性と安心・安全で住みやすいまちづくりにつながる。 「第二次上田市総合計画（後期まちづくり計画）第2編 自然・生活環境 安全安心な快適環境のまちづくり」に掲げる施策等を推進し、持続的な発展が可能となる循環型社会形成が具現化される。		該当するSDGsの目標					
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）				
① 【上田圏域と松本圏域の主要幹線道路等の整備促進】 (1) 国道254号（荻窪工区・虚空蔵工区・平井）バイパス (2) 荻窪丸子線（バスレーン設置） (3) 上田塩川線 (4) 国道152号バイパス (5) 「道の駅」調査業務委託発注	(1)～(5) 4月～3月	(1)～(4) 県事業で実施中であり、早期完成に向けて県と連携をして実施 (5) 候補地、事業規模、コンセプトの決定 地元住民・組織との連携を図る	【上田圏域と松本圏域の主要幹線道路等の整備促進】 (1) 荻窪B P-9月30日用地契約。虚空蔵工区一設計（線形）協議中 平井B P-用地1件交渉中 (2) 用地1件交渉中 (3) 工事発注の協議中 (4) コロナ禍の影響により業務に遅れがでている。現在意見交換会準備中 (5) 9月上旬に委託契約済	【上田圏域と松本圏域の主要幹線道路等の整備促進】 (1) 国道254号（荻窪工区-100%用地買収済・虚空蔵工区-R4.3.23地権者説明会 コロナ禍により延期・平井-1名契約完了） (2) 3月に関連工事発注 (3) 工事発注に伴う、立会い済 (4) R3.12.4に第1回住民意見交換会済 (5) 候補地検討に時間を要し、5月上旬に候補地を決定予定				
② 【千曲川・依田川合流地点の河川環境整備】 (1) かわまちづくり事業 造成工事 N=1式	(1)9月発注	(1) 造成工事 N=1式 管理・運営に関する協議会の開催 (3回)	【千曲川・依田川合流地点の河川環境整備】 (1) 設計業務に伴う河川占用協議中	【千曲川・依田川合流地点の河川環境整備】 (1) 工事発注済 用地買収完了				
③ 【安全性・利便性向上のための道路整備】 (1) [都市再編]箱置線道路改良事業 (2) [都市再編]上丸子石井線整備事業 (3) [公安]金井線道路改良事業	(1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月	(1) 用地契約 N=9件・補償契約 N=9件 (2) 工事(L=150m) 発注 (3) 用地契約 N=1件・補償契約 N=1件	【安全性・利便性向上のための道路整備】 (1) 用地 N=5件交渉中・補償 N=6件交渉中 (2) 工事設計中 (3) 用地交渉中。 (※ N=件数)	【安全性・利便性向上のための道路整備】 □ (1) 用地 9件中5件契約・補償 9件中5件契約 (2) 工事発注済 (3) 用地交渉中				
④ 【地域公共交通の利便性向上に向けた取り組み】 (1) 丸子・武石地区 公共交通再編検討（循環バス：まりんこ号） 地域交通有識者と現地調査・ニーズ調査等を経て具体案を策定し、合同交通部会にて新運行システムを選定し、試験運行に向け準備	(1)4月～3月	(1) 新運行システムの検討	【地域公共交通の利便性向上に向けた取り組み】 (1) 地域交通有識者と6月に現地調査・ニーズ調査を実施し調査データのとりまとめを行った。現在調査結果をもとに新運行システムの具体案を複数策定中。	【地域公共交通の利便性向上に向けた取り組み】 (1) ニーズ調査などを行い、複数の運行システム（案）を作成し、実証運行に向け関係機関と協議・調整中□				
⑤ 【資源循環型社会構築に向けた再資源化等の促進】 (1) ごみ分別の徹底と生ごみ減量化施策の啓発 (2) 容器リサイクル法に基づくプラごみの適正分別の周知	(1)4月～3月 (2)4月～3月	(1) 自治センターだより等による周知 (2) プラごみの未回収件数対前年度比5%削減	【資源循環型社会構築に向けた再資源化等の促進】 (1) 適正なごみの分別について等の広報 ・丸子地域ゴミの出し方カレンダー全戸配布 ・悪質なごみ集積所に警告等掲示看板設置 5箇所 (2) プラごみ未回収件数 9月末現在 297件 前年度456件（前年同期比65.1%）	【資源循環型社会構築に向けた再資源化等の促進】 (1) 適正なごみの分別について等の広報 ・丸子地域ゴミの出し方カレンダー全戸配布 ・悪質なごみ集積所に警告等掲示看板設置 年間13箇所 ・古着回収実施(12/18・丸子文化会館 1,900kg) (2) プラごみ未回収件数 対前年度比 5% R3 562件 / R2 725件 対前年度比22%減				
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題					

重点目標	産業が育つ地域づくり・地域の特性を活かしたワイン産業振興		部局名	丸子地域自治センター	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第3編 産業・経済 第1章 次世代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と地域化の促進		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	働く喜びにあふれ、産業がいきいき発展するまちづくり		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 (2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 ウ市有財産の適切な管理と利活用 (3) 時代に即した行政運営への改革 イ人材の確保・育成と職員の意識改革				
現況・課題	上田市初のワイナリーとなる「梔子ワイナリー」は、地域の新たな魅力や経済的な効果を生み出し、地域産業や観光振興に寄与するものと期待されています。さらに、キリンググループとのワイン産業振興を軸にした地域活性化に関する包括連携協定に基づき、地域の新たな基幹産業として発展するよう、地域産業との有機的に結びつきによる産業化を図り、上田市のブランド化やワイン産業の醸成やワイン文化の醸成の人材発掘育成を目指す。農商工連携した地域の6次産業化による地域活性化が求められていることから、「西洋梨6次産業産地化プロジェクト」を支援し圃場拡大等による産地化・ブランド化の推進が期待されます。中山間地区においては、農業基盤の老朽化への対応が求められている。					
目的・効果	梔子ワイナリーを中心とした地域経済の活性化 西洋梨6次産業産地化プロジェクトを中心とした地域農業及び経済の活性化 農業基盤整備による地域農業経営の安定化		該当するSDGsの目標			
取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	【地域の特性を活かした農業とワイン産業振興】 (1) キリンググループとのワイン産業振興を軸にした地域活性化 ① ワイン産業化の戦略を描ける職員の育成・地域リーダー、プレイヤーの発掘、育成	(1) ①4月～3月	(1) ① 人材育成・発掘のプロジェクト活動実施 職員研修の実施（12回）	【地域の特性を活かした農業とワイン産業振興】 (1) ①・市内リーダー、ローカルプレイヤーの発掘を目的に8月に5名のパネリストを迎えてパネルディスカッションを開催 (74名参加 内オンライン46名) ・市職員のワイン産業理解の深化を目的に自主研修を行った。（6回）	【地域の特性を活かした農業とワイン産業振興】 (1) ①・市内リーダー、ローカルプレイヤーの発掘を目的にセミナー2回（8月・12月）開催（200名参加、内オンライン130名） ・地域リーダー発掘ワインビジネススクール「上田ワインビジネスラボ」を3月から開講（16名参加） ・コロナ禍により、市職員自主研修研修を実施（18名 6回）	
	② 上田プロジェクトチーム事務局運営	②4月～3月	② 隔月にチーム会議を実施し関係者の進捗状況を確認 3月に総会開催	② 6月に上田ワインプロジェクト総会を開催し事業計画・事業予算の審議を行った。上田ワインプロジェクト会議及びコア会議を行い、進捗状況を確認	② 上田ワインプロジェクト会議及びコア会議を隔月に行い、進捗状況確認を行い、3月に総会開催（書面決議）3月キリンググループと包括連携協定会議を開催	
	(2) 梔子ワイナリーと地域との共生 ① メルシャン（株）と市関係部局との共同会議を随時開催し、ワイナリーを活かした地域活性化を推進 ② ワイナリーへの出品増加に向け、地元の農業・事業者等へ参加促進を働きかけ、併せて地域農産物のPRや地元事業者の活性化を推進	(2) ①4月～3月 ②4月～3月	(2) ① マンズワイナリー（小諸）や梔子ワイナリー主催イベントと連携した梔子マルシェへの市内・市外客の誘客増 ② 地元参加延べ20団体（企業）	(2) ① 10月のマンズワインとの共同イベントは、コロナ禍により中止となったが、梔子ワイナリー主催イベントは、アフターコロナを見据えた活動を継続した。 ② 春のマルシェは、緊急事態宣言地域の入場規制はあったが、約400名の参加と地元出展8事業者参加があった。	(2) ① 新型コロナの影響でイベントは出来なかったが、限られた制限のなか、ワイン振興推進を目的に梔子ワイナリーでワインセミナー2回開催20人参加 ② 春秋の梔子マルシェ（5/29.10/23.24）は、地元団体中心に18団体参加（来場者合計1,500人）	
(3) キリンCSVとタイアップし、若手農業者グループ「HEARTBEATまるこ」による地域活性化を支援 ① 「HEARTBEATまるこ」と地元飲食店との連携による、イベント及びツーリズムの開催や運営の支援	(3) ①4月～3月	(3) ① (1)の取組みと連携したツーリズムのツアーの企画実施 飲食店連携のワイン会の実施（年2回）	(3) ① 11月末の農業体験型観光ツーリズムツアー開催に向け、会議に参加し助言や支援を行った。飲食店連携のワイン会については、コロナ禍の感染予防を含め再構築を図った。	(3) ① 11月20日、21日に農業体験型観光ツーリズムツアーを募集したが、最小開催人数に達せず未実施 飲食店連携のワイン会については、コロナ禍で県外1店舗で実施（12/5 32名参加） 飲食店連携は、地元飲食店8軒と連携し、販路開拓を実施		
※CSV（Creating Shared value）とは、企業が社会と共有できる価値の創造を意味し、社会的課題への取組による「社会的価値の創造」と「経済的価値の創造」の両立により企業価値向上を実現すること。 取組事例：上田市丸子地域、岩手県横手市、新潟県長岡市、石川県七尾市等						

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
②	【国道254号バイパス建設に合わせた農業基盤整備】 県営 中山間総合整備事業（美の郷地区）の事業推進 ①荻窪工区 ②梨ノ木工区 ③赤岩工区 ④高梨工区 ⑤大塩工区 ⑥穴沢工区 ⑦下和子工区 ⑧虚空蔵工区 ⑨裏工区	①～⑨ 4月～3月	①頭首工改修 N=1箇所 ②農道整備 L=850m ③水路改修 L=180m ④用地買収 N=16件 ⑤用地買収 N=2件 ⑥用地買収 N=8件 ⑦用地買収 N=20件 ⑧用地買収 N=10件 ⑨落石防止柵 L=280m	【国道254号バイパス建設に合わせた農業基盤整備】 ① 工事契約済 ② 工事契約済 ③ 工事説明会を開催し、工事に着手予定 ④ 用地立会いを実施し、用地協議を準備中 ⑤ 用地協議を準備中 ⑥ 用地協議を準備中 ⑦ 用地立会いを実施し、用地協議を準備中 ⑧ 用地協議を準備中 ⑨ 工事中用通路等準備中	【国道254号バイパス建設に合わせた農業基盤整備】 ①頭首工改修 N=1箇所（工事着手、繰越して実施） ②農道整備 L=850m（完成） ③水路改修 L=180m（工事中、繰越して実施） ④一部設計修正、用地立会い完了 ⑤用地買収 N=1件済ほか1件協議中 ⑥用地買収 N=4件済ほか1件協議中 ⑦用地立会い完了 ⑧用地買収 N=5件済ほか2件協議中 ⑨落石防止柵 L=280m（工事中、繰越して実施）
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題	

重点目標	住民自治組織やパートナーシップによる参加と協働のまちづくり		部局名	丸子地域自治センター	優先順位	3位
総合計画における位置付け	第1編 自治・協働・行政 第1章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第2節 地域内分権による地域の自治の推進		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	「つながり」と「多様性」を大切に市民総参加のまちづくり		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり エ 広域連携の推進				
現況・課題	地域内分権による地域の自治のさらなる推進を目指し、「丸子まちづくり会議」や地区会議と連携・協働による事業の取組が求められています。四年毎の木曾義仲関連事業においてパートナーシップ協定による市商工会・丸子修学館高校、長野県県立大学等が連携し実施を行う事業について支援します。また、建築後40年経過した自治センターの人にやさしいバリアフリー化及び設備改修の実施設計について検討を行います。					
目的・効果	丸子まちづくり会議と行政が協働した事業に取組むことにより、地域課題の解決や地域活性化につなげます。市民協働による事業の実施により歴史的・文化的遺産の継承につながります。自治センターの人にやさしいバリアフリー化及び設備改修の実施設計を進めることにより来庁者や地域住民の安心感と地域防災の拠点施設として災害時にも機能が果たせる計画が出来ます。		該当するSDGsの目標			
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
① 【住民自治組織の運営基盤づくりに向けた連携・協働の取組み】 (1) 丸子まちづくり会議との協働による事業の取り組み (2) 地区会議及び他組織との連携による事業の取り組み	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 丸子まちづくり会議と連携した事業の実施と組織強化に関する支援 (2) 地区会議との合同による事業の実施や他組織と連携した事業の実施	【住民自治組織の運営基盤づくりに向けた連携・協働の取組み】 (1) まちづくり会議が行う丸子ファーストビルの商業スペース開放事業は、中学校美術部の作品展示、絵本の読み聞かせ、コーヒーサロン等の事業を実施 少人数の会議等市民が気軽に使える場所として活用 毎月開催されている理事会に出席し情報共有と組織強化を支援 (2) 6月23日に3地区会議合同で意見交換会を実施	【住民自治組織の運営基盤づくりに向けた連携・協働の取組み】 (1) 丸子まちづくり会議が丸子ファーストビルに移転し フリースペース「あったまるこ」で一般開放し、 各種市民団体が利用 専任職員による連携、支援 (2) 毎月開催の理事会に出席し情報を共有		
② 【市民協働による地域資源等を活用した事業の実施及び支援】 (1) 丸子修学館高校・上田市商工会とのパートナーシップ協定に基づく連携した事業を検討、開催 (2) 木曾義仲関連事業に係る支援	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 若手人材の育成を図るため、産業フェスタや中心市街地での農産物販売会等の事業の検討と実施開催 (2) 実行委員会・丸子修学館高校・上田市商工会・長野県立大学と協働による企画・運営・実施の支援	【市民協働による地域資源等を活用した事業の実施及び支援】 (1) 5月25日、3者で事業計画を協議 新型コロナの影響から、各事業が中止となったが「サテライト市長室」で丸子修学館高校のこれまでの活動を報告 (2) 信州丸子義仲祭りは来年度に延期 令和4年1月から放送される大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の木曾義仲登場に合わせた宣伝・イベント等を計画	【市民協働による地域資源等を活用した事業の実施及び支援】 (1) 3者会議で事業を計画し、丸子修学館による「サテライト市長室」と、依田川リバーフロント市民の広場の剪定作業を実施 (2) 実行委員会を組織し、令和4年1年を義仲イヤーとして信州丸子義仲祭りを1月から開始 史跡周辺整備とのぼり、チラシを作成し「義仲挙兵の地」をPRし、各種イベントを計画		
③ 【自治センター整備事業】 (1) 自治センターのバリアフリー化に向けた取組み (2) 自治センターの設備改修工事に向けた取組み	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) バリアフリー化実施設計（業務委託）の完成（3月上） (2) 設備改修実施設計（業務委託）の完成（3月上）	【自治センター整備事業】 (1) バリアフリー化実施設計のトイレ平面計画が概ね完成。実施設計業務完了を令和4年1月末に予定 (2) 設備改修実施設計（業務委託）は、事業財源の再検討中	【自治センター整備事業】 (1) バリアフリー化実施設計が完成し、令和4年度に工事実施予定 (2) 設備改修は事業財源及び計画を策定し市政経営会議で方向性が示され、令和4年度実施設計予定		
④						
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			

重点目標	現代のライフスタイルにあった丸子温泉郷の振興			部局名	丸子地域自治センター	優先順位	4位	
総合計画における位置付け	第3編 産業・経済 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興			上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	働く喜びにあふれ、産業がいきいき発展するまちづくり			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり						
現況・課題	鹿教湯温泉、大塩温泉、霊泉寺温泉からなる丸子温泉郷は、かつて国民保養温泉地として豊かな自然や医療機関との連携などの地域特性を活かし、多くの宿泊客で賑わいましたが、温泉保養事業の終了など、時代の変化により観光客の減少傾向が続いています。 こうした状況の中、丸子温泉郷では若い世代の旅館経営者などが中心となった複数のグループが立ち上がり、「地域の活性化」という共通目的の実現に向けた様々な活動が始まっています。 また、公益社団法人日本理学療法士協会、環境省、上田市による「温泉を活かした健康づくりに関する協定」による取組も継続していますが、コロナ禍における新たな旅行スタイルへの対応も必要とされており、これらを研究しながらどのように誘客へ結び付けるかが課題となっています。							
目的・効果	「健康の湯」「回復力の湯」として、国民保養温泉地指定の健全な保養地である丸子温泉郷のイメージを大切にしながら、現代のライフスタイルにもあった滞在型観光の魅力をもPRし、来客数増加を目指します。 コロナ禍における事業者支援事業を検討し、実施する。			該当するSDGsの目標				
取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
【温泉を活かした地域活性化事業の推進】 (1) コロナ禍における観光支援事業の推進 (2) 現代のライフスタイルにあった温泉地を目指す「環境省（新湯治プラン）の推進 (3) 鹿教湯温泉100年ブランド創造プロジェクトマスタープランⅡに基づく取組みへの参画 (4) 霊泉寺温泉自然JUKUプロジェクトの取組みへの参画による丸子温泉郷の誘客の推進		(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月	(1) 支援内容検討のうえ実施 (2) 三者協定に基づく「健康と温泉に関するフォーラム」の継続実施 (3) 「ポールを使ったウォーキングフェスタ」の継続実施 (4) イベント参加者前年対比5%増	【温泉を活かした地域活性化事業の推進】 (1) 鹿教湯・大塩・霊泉寺温泉の各観光協会から、観光誘客促進事業補助金についての要望を3地域計14回の会議等に出席して取りまとめ、交付申請事務を実施 (2) オンラインで関係者打合せを2回行い、令和4年2～3月ごろの開催に向け検討・調整中 (3) 「鹿教湯温泉しあわせポールdeアクティブウォーキングフェスタ」実行委員会に2回出席したが、コロナ禍で中止 代替イベントとして「かけゆ しあわせ探しQRコードラリー」を10/1から実施予定 (4) ネイチャートレッキング、MAD&MUDDYが開催され、合わせて113名の参加（コロナ感染拡大防止で参加定員を減らしたため前年比28.9%の減） クリーンフェスタはコロナ感染拡大防止のため中止		【温泉を活かした地域活性化事業の推進】 (1) 鹿教湯・大塩・霊泉寺温泉の各観光協会に係る誘客促進事業について、各地区の計画通りに事業を実施（宿泊割、こたつバル、空気清浄機購入、ホームページリニューアルなど） (2) オンラインで4回、他にメールでも関係者打合せを重ねたが、フォーラムはコロナ禍で中止 理学療法士協会からの申し出により三者協定は今年度で解消となるが、今後の環境省との連携継続は確認済 (3) 「鹿教湯温泉しあわせポールdeアクティブウォーキングフェスタ」の代替事業「かけゆ しあわせ探しQRコードラリー」を10/1～12/27まで実施し、222名の参加（うち宿泊者98名） (4) ネイチャートレッキング、MAD&MUDDYが開催され、合わせて113名の参加（コロナ感染拡大防止で参加定員を減らしたため前年比28.9%の減） クリーンフェスタはコロナ感染拡大防止のため中止 地域要望に対応した観光トイレを整備を実施		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				